平成 16 年 6 月 21 日

<4953　佐々木　朗>

情報社会に参画する態度の育成

１．はじめに

近年のネット社会の発展は子ども達の生活にも直接的な影響を及ぼすようになってきた。自分の調べたい情報についてインターネットを用いて入手することができ、また友達とのコミュニケーションの手段として、電子メール、掲示板、チャットなども子ども達でもいとも簡単に利用する時代となった。そのような社会的背景において、ネットが関わる性犯罪、暴行、詐欺など情報社会が抱える負の面が表面化することが非常に多くなった。

これからの社会で避けては通ることのできないネットワーク社会において、子ども達が敗者とならぬように、学校教育において、特に情報教育という観点で、以下のようなことを児童生徒に指導していくことが大切だと考える。

２．情報教育とは

情報教育とは情報活用能力を育成することである。情報活用能力とは次の３点に整理されている。

(1) 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて，必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し，受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

(2) 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と，情報を適切に扱ったり，自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

(3) 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し，情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え，望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

したがって、コンピュータ操作を指導するのは情報教育とは言えない。だが、文部科学省の「情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて」においては、必要最低限の操作の習得のための学習に配慮するよう述べられている。

３．情報教育の教育課程での位置づけ

小・中学校においては、情報教育の時間は設定されていない。この点について小学校の学習指導要領においては、総合的な学習の時間において、例えばということで、国際理解、環境、福祉・健康と並べて情報についても、横断的・総合的な課題として学校の実態に応

じて学習活動を行うものとしている。また、教科等の指導に当たって、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ，適切に活用する学習活動を充実すると述べられている。また、中学校の指導要領においては、小学校同様、総合的な学習の時間における学習活動、各教科での情報手段の活用の充実に加え、技術・家庭に「情報とコンピュータ」という領域を設け、情報教育の観点から内容を充実させている。

４．今緊急に求められている課題

長崎の児童殺傷事件がインターネットの掲示板に関わるトラブルがあったとのことで、ネット社会のあり方について、今緊急な課題としてあがっている。

最近の日本ＰＴＡ全国協議会の調査によると、インターネットの利用経験が小５で約70%、中２で 80%以上にも及び、親の経験の割合(約 60%)を超えている。さらに、親の目の届かないところでのネット利用が多く、ネット利用内容について学年が進むと親と話をしないとのことである。さらに、インターネット利用に関わる知識では、中２では親を上回るという調査結果もでた。

子ども同士はネット上で、情報を交換し、その吸収力は驚くべきものがある。子どもが親のレベルを超えるという調査もよく考えれば不思議なことではない。しかしながら、子どもが入手する情報というのは、時として倫理性にかけていることもあり、体系的に指導していく場がなければならない。家庭において、時には親子でネットの画面を一緒に見ながら、会話をすることも大切であるが、今、学校教育においても緊急にネットの利用におけるマナーやまた落とし穴などを体系的に指導していくことが強く望まれている。

５．具体的に指導していかなければならない内容

ネットに関わり、指導していかなければならない事項はざっと考えただけでも多岐に渡る。学校においては、これらの事項について、総合的な時間の指導のみならず、全て教育活動の中で有機的に指導していくことが望まれる。

(1)インターネットにおける情報検索

①無料ダウンロードのわな

②Ｗｅｂサイトの信用性

③大人向け、危険情報

(2)インターネットをつかった情報発信

①個人情報の発信

②悪口や言葉遣い

③著作権

④確かな情報の発信

(3)インターネットでのコミュニケーション

①ネズミ講、マルチ商法

②チェーンメール、スパムメール
③契約
④チャット、掲示板のなりすましと危険性
(4)インターネット・ショッピング
①クレジットカードの取扱い
②相手の信用性
③発注ミス
④ネットオークション

６．掲示板やチャットに関わる指導

ネットを通して、つまり相手を目の前にしない状態で、コミュニケーションを取ると、普段より気持ちが大きくなるという調査がある。時には、普段以上に、感情が高まってそれが、卑劣な文字として相手に伝わることになる。さらに、実際場面ならばある程度までお互いが感情的になると、喧嘩ということになるが、ネット上ではそれがないため、とことんまで感情がもつれ、相手に対する憎しみが増大することになる。また、故意に仲のよい友人同士に、誤解を招くような情報を与え、友人同士の仲が険悪になるのを喜び、傍観している者もいるという現実がある。

しかしながら、掲示板もチャットも情報交流の場としてはすばらしいものもあり、私は否定する立場を取らない。子ども達がこれらの利用について、正しく利用できるように、親や学校では、指導する機会を積極的に作っていく必要があろう。

①家庭における指導

調査によると、親よりも子どもの方がネットに関する知識が上であるという調査があって難しいのかもしれないが、最初の段階としては、親が子どもと一緒にパソコンに向かいながら、子どもと話をしながら、利用していくことが大切であろう。また、基本的なことではあるが、一緒に食事をするとか、一緒にテレビを見るとか、「親子の対話」などと形式的なものではなくても、話をしていく時間の確保も大切であろう。

これからの時代、親は、「パソコンはついていけない。」ではなくて、時には親子チャットをやってみるなど、良き理解者となることも必要なのかもしれない。

②学校における指導

小学校の高学年ぐらいになると、ネットでの友達とのコミュニケーションの幅がぐっと広まる。学校においても正しいネットの使い方を指導していくことが急務である。最初にチャットや掲示板の基本的なことを指導し、それに付随する危険性について触れていく。匿名性があること、個人情報（住所、電話、名前など）を送信すると危険があることなどを伝え、子ども達にそのような場合は、どうなるか、また、どうすればいいかなどの話し合いをさせていくことが大切である。そのような事前指導をした後、子ども達に実際にニックネームでチャットや掲示板を利用させていきたい。場合によっては先生がニックネー

ムで、個人情報を聞き出すような情報を送って、それに惑わされないかどうか、後ほど全員で話し合ってみるのもよいかもしれない。

また、子ども達のほとんどは、クラスの何人かで、チャットや掲示板のグループを構成していることが多い。教師は時には、見ず知らずの相手に悩んでいることがないか、また浮かれていることはないかなど、子ども達の話に耳を傾けることも必要である。

７．最後に

私はいつもでも思っているのは「ネットの向こうには人間がいる。」ということである。温かいコミュニケーションがあり、遠く離れた友人ができ、楽しい交流ができる。私は情報教育を推進する者の一人として、正しいネットの使い方を指導し、学校現場においても、情報の入手、そして発信のために、ＩＴの技術が今以上に効果的に使われることを期待したい。